

地域支援だより

きらりNet



令和2年10月23日

第107号

秋田県立秋田きらり支援学校

地域支援部

タブレット端末の活用例

本校でも学習や生活を手助けするツールとして、タブレット端末が使われています。調理レシピの情報収集、数学の図形などのイメージ化、花火や星空の映像から音や光の刺激を体感など様々な目的がありますが、今回は、言葉で伝えることが苦手な児童生徒が、意思伝達の補助ツールとして活用する例について紹介します。



ドロップトーク

AAC（補助代替コミュニケーション）アプリ

ドロップトークはタブレット端末のアプリで、VOCA（携帯型会話補助装置）と同様の機能があります。画面のシンボル（アイコン）をタップすることにより、あらかじめ録音した音声がかかります。事前に情報を準備しておくことが大事ですが、必要に応じてその場で写真を撮る、録音するなどすぐに追加することもできます。

意思伝達ツールとして

4つに分割された画面に天気や先生の顔写真などを表示します。朝の活動などで、今日の天気や、先生への依頼などの画像をタップし、自分の気持ちを伝えます。正確にタップできるように、発砲スチロールの枠を画面に付けています。

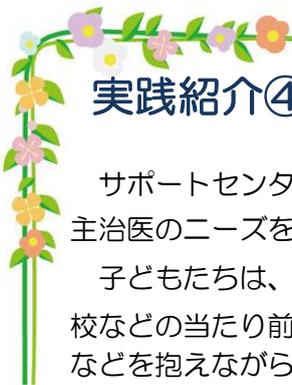


コミュニケーションツールとして

生活単元学習で、秋田の良いところを知りみんなに見どころを紹介するための映像を編集しています。名所や名物などプレゼンテーションに使う画像を、友達と相談しながら選ぶ活動を進めています。

インターネットやその場で撮った写真などを、すぐに選択肢にできることが利点です。人との関わりや活動の手助けという使い方を念頭に、必要な補助ツールとして活用できればと考えます。

（文責：葛西 輝美）



実践紹介④ 【病弱教育サポートセンターきらり☆】

～ 病気の子どもたちへのICT機器の活用～

サポートセンターきらり☆では、秋田市内の総合病院に入院する小中学生を対象に、本人、保護者、主治医のニーズを受け**相談支援**や**学習支援**を行っています。

子どもたちは、体調が優れないことに加え、飲みにくい薬や注射、点滴等の辛い**治療**や、家庭や学校などの当たり前の**日常から引き離される入院生活**で、様々な**不安**や**孤独感**、**寂しさ**などを抱えながら過ごしています。

そんな子どもたちへの支援として、大切にしていることのひとつに**学校や友達とのつながり**が挙げられます。友達から手紙やメッセージビデオが届くことがありますが、入院中の身を気遣って、配布物でのやりとりが主になります。

そこで、サポートセンターでは、ニーズに応じて**ICT 機器**を活用した交流を勧めています。具体的には**Skype**（ビデオ通話システム）や**Zoom**（Web 会議ツール）を使って病室と在籍校をつなぎ、授業だけでなく、休み時間や集会等で交流の時間を設けています。双方向のやりとりを通して、学校の雰囲気を感じ、自分の戻る場所として学校の存在を再認識することにつながっています。

口数の少なかった中学生が、モニターに映る友達や学校の様子を熱心に説明するなど、**復学への期待感**、さらには、入院中の治療や検査への**意欲や治療効果**にもよい影響を与えています。（文責：藤井奈緒子）



入院中でも学校で行われた交流大会壮行会に参加できました。

教育専門監のコーナー

【病気の子どものキャリア発達を支える】

1 子どもの自尊感情を育む

「自分は自分のままでいい」「役に立つことができる」「自分は賢い」「自分は愛されている」「自分は仲間がいる」というものであり、子ども達がそう思える瞬間を、教育実践の中で作っていく。

2 傷つきからの回復

安全と安心の確保(safety)と選択と挑戦(challenge)の機会提供、そして日常の保障・将来の希望(Hope)への支援という傷つきを抱えた子供たちが、回復をし、将来に向かって進んでいくためのプロセスを意識する。

3 発達課題に向き合う機会の保障

病気の治療をしながら、入院をしながらも、自身の発達課題を越えていく機会を保障し、キャリア発達に向けた多様な選択肢を提供する。

参考「病院内学級におけるキャリア教育の実践」 副島賢和

《一人一人の自立と社会参加》

本校では、家庭や病室で学ぶ訪問教育の児童生徒に、インターネットによるコミュニケーション支援と遠隔授業を行っています。病室や自宅にしながら「その場にいる」感覚を共有し、指先や目の動きで自分の思を伝えながら、学校で学ぶクラスの仲間と一緒に学習に加わります。

学校に通い、友だちと意思疎通を図りながら、役割を担い、集団参加を果たす子ども達。学校という場で自身の発達課題に向き合い、自尊感情を育てています。しかし、突然の病気やけがで学校に通えない子ども達が今もいます。

対話の機会や役割の喪失により、病気の子ども達の心と身体が傷ついてしまわないように、本校では、すべての子ども達の**Safety, Challenge, Hope**を支援するICTによる新たな学びのかたちを提案し、一人ひとりの自立と社会参加を進めています。

〈文責：二階堂 悟〉



教頭 兜森 宏征 地域支援部主任 大友 明希子

住所：〒010-1409 秋田市南ヶ丘1丁目1番1号

E-mail：kirarisien@akita-pref.ed.jp

電話：018 (889) 8573 FAX：018 (889) 8575

「きらり Net」は本校ホームページから閲覧することができます。

<http://www.kagayaki.akita-pref.ed.jp/kirari/index.html>